

令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

菅北小	学校
-----	----

児童数	46
-----	----

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	15.13	19.44	33.00	39.38	47.43	9.45	136.92	17.33	53.02
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
女子	16.21	16.30	33.40	33.90	30.62	10.35	110.79	9.95	45.87
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

結果の概要

質問項目「運動やスポーツをすることは好きですか」の質問に対して、肯定的に回答している児童は男女ともに90%を超えていた。また、男女ともに1週間の総運動量時間が60分未満の児童の割合が男子は、全国（9.8%）・大阪市（11.7%）の平均に対して6.7%となっており、女子は全国（17.3%）・大阪市（20%）の平均に対して9.6%とどちらも運動をしている時間が少ない児童が多く、運動やスポーツに対して好意的で、抵抗感のある児童は少ないことがわかった。体力合計点は、全国・大阪市より合計点では、男子が大阪市の平均より上回っており、全国の平均と同水準であった。一方で、女子は握力が全国・大阪市の平均よりも高かったが、他の種目については平均を大きく下回った。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

今年度の取組みとして、運動委員会による縄跳び週間やかけ足月間、大縄エリアの設定など、基礎体力を高めるための取組みを計画的に取り組んできた。また、全ての運動の土台である体幹を鍛えるために学校独自の「KTS（菅北・体幹・姿勢）体操」を学期に1回実施し、体を動かす機会を多く設定した。その結果、運動に対して抵抗感を感じる児童は少なくなり、意欲を高めることができたが、運動能力まで高めるところまでには至らなかった。

課題として、運動やスポーツに対して肯定的に回答している児童が多いことと、週当たりの運動時間が少ない児童が全国と大阪市の平均よりは、多くはないが一定数いることである。特に女子は体力合計点が全国・大阪市平均を下回っており、基本的体力の向上が必要である。今後は、授業改善による運動量の確保に加え、基礎体力を高める継続的な取組みを休み時間や家庭との連携した日常的な運動習慣づくりを進める。